

## 令和6年第3回県立高等学校将来構想審議会 会議録

開催日時 令和6年10月24日（木）午前10時から正午まで

開催場所 宮城県行政庁舎4階 特別会議室（宮城県仙台市青葉区本町3丁目8-1）

出席者 別紙「出席者名簿」のとおり

### 1 開会（事務局）

### 2 挨拶（宮城県教育委員会教育長 佐藤 靖彦）

開会に当たりまして一言御挨拶を申し上げます。委員の皆様方には大変御多用のところ御出席いただきまして、誠にありがとうございます。8月に開催いたしました前回の審議会では、次期県立高校将来構想の策定に向けた学校配置や学校規模の考え方の論点整理としまして、今後急速に少子化が進展する中で県立高校が果たすべき役割や多様な教育ニーズへの対応など、様々な課題への対応の方向性につきまして、委員の皆様から貴重な御意見を頂戴したところでございます。

本日の審議会では前回の御意見を踏まえて整理をさせていただきました学校配置・学校規模の考え方につきましての案をお示しさせていただき、さらに御意見をいただきたいと思っております。また、今後の議論の進め方として、特に重点的に審議すべき事項を集中的に調査・検討を行うための部会の設置について御説明させていただき、委員の皆様から御意見を頂戴したいと考えております。

この審議会でございますが、毎回様々な御意見をいただいておりますので、本県の高校教育にとって大変意義のある審議会と我々も考えておりますので、限られた時間ではございますけれども、委員の皆様におかれましては、様々な視点から忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願い致します。

### 3 議事

#### 【青木会長】

議事（1）学校配置や学校規模の考え方について、事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局（高橋高校教育改革担当課長）】

資料1により、学校配置や学校規模の考え方に係る前回の意見を説明するとともに、意見を踏まえた方向性（案）を説明。

#### 【青木会長】

事務局から、学校配置や学校規模の考え方（案）の説明をいただきました。1点確認ですが、本日は（案）を取るところまで済ませなければならないということでしょうか。

#### 【事務局（高橋高校教育改革担当課長）】

本日お示ししている学校配置や学校規模の考え方（案）は次期県立高校将来構想の基本方針でございますので、基本的な考え方は本日決めていただきたいと思いますと思いますが、今日決めた段階で動かさないということにはなりませんので、答申をいただくまでに調整しながら進めさせていただきたいと考え

ております。今後、部会の審議に当たって、この基本方針などを委員の皆様にご共有いただき、共通認識を持っていただきたいと思いますという趣旨でございます。

**【青木会長】**

御説明ありがとうございます。そうしますと本日お示しいただいた考え方の（案）は取らないけれども、本日委員の皆様にご共有いただき、（案）の範囲内で部会の議論を進めていただくという理解でよろしいでしょうか。

**【事務局（高橋高校教育改革担当課長）】**

御認識のとおりでございます。よろしくお願いいたします。

**【青木会長】**

ありがとうございます。委員の皆様、ただ今の事務局からの御説明で共通の御理解をいただけましたでしょうか。それではここから、学校配置・学校規模の考え方につきまして、どの内容でも結構ですので、御意見、御質問をいただければと思います。

それでは、前回と同様、こちらから指名させていただきたいと思います。

まず、基本方針について、平吹委員に、中学生の保護者の立場から御意見を頂戴したいと思いますが、お願いできますでしょうか。

**【平吹淳委員】**

基本方針に関しましては、この内容で良いと思われま。

**【青木会長】**

普通科の在り方・魅力化の各論の部分につきまして、高橋賢委員お願いいたします。

**【高橋賢委員】**

普通科の在り方・魅力化について、2つの項目がありますが、いずれもこのような形で進めていくのが良いと思います。圏域毎に進学重点校を配置することについて、普通科というと大学進学等の話が出てくると思いますが、大学進学がゴールではなくて、普通科、高校でやっていることはキャリア教育を含め、大学の先を見据えた学びとなっているのが現状です。大学進学を希望する生徒に対して、どのように学びを提供していくかというところがポイントになって、それぞれの普通科が特色化・魅力化を図っていくということが今行われています。普通科の高校というのは、自分の学校の特色や魅力がどの部分なのかは苦労していると思います。スクール・ミッションはありますが、それぞれの学校で他の学校と自分の学校で違う点を出していくことは非常に難しいと思いますが、それぞれの学校でそういったところをきちんと押さえて進んでいくのが良いと思います。

普通科改革が様々なところで行われていて、学際領域あるいは地域社会の話が出ていて、国の補助を受ける指定校というのも出ていますが、実際に今やっている文理融合といった学びは確かに重要ですが、大学進学を考えると、大学の入試科目といわゆる学校設定科目という部分で、どうしても難しい点が出てきているのが進学校としてはあり、大学進学が多い学校としては難しい点と考えております。大学の入試科目と今高校で行っている学びをすり合わせないと難しい部分が出てくるのかなと思

っています。文理融合的な学びは必要ですが、大学入試科目との兼ね合い等を解決していかないと、これ以上進んで行かないのかなというところが今懸念されていると思っております。

#### 【青木会長】

高橋委員ありがとうございました。スクールミッション・スクールポリシーは今各校に求められているわけですので、そういう既存の制度との兼ね合い、あるいは既存の制度の活用も含めて、部会での検討も必要だろうという御意見をいただきました。ありがとうございました。

平吹委員に基本方針の件でもう少し伺いたいのですが、学校の配置で今お示しいただいた案では、一律に小規模になったら統廃合してしまうというわけではなくて、通学のことなども考えて、各地区で大学に進学に対応した普通科、専門学科等を配置することが示されたわけですが、生徒の進路保障なども踏まえて、もう少し御意見いただければと思います。いかがでしょうか。

#### 【平吹淳委員】

今の子ども達が高校に通うためにどれぐらい魅力を感じているのかというところで、情報発信をしっかりしていただきたいというところはあります。教育機会の確保は必要ですが、確保して終わりではなくて、それをどのように発信していくか。子供達に対してもそうですが、保護者に対しても、どのように情報を発信していくかというのが大事になってくると思います。その中で高校をどのような形で選択していくかというのを、私たち保護者や子供たちが関心を示して、検討しながら将来の進むべき道を検討することが必要なのかなと思います。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。配置はもちろん大事だけでも、それぞれの学校で情報発信を行いつつ、学校での教育実践もしっかり取り組んでいくという御意見と承りました。

続きまして、専門学科の在り方・魅力化につきまして、関委員お願いできますでしょうか。

#### 【関美織委員】

お示しいただいた考え方については、前回の議論を受けての内容になっているので、基本的には賛成です。気になる点として、学校間・学科間連携は必要なことなので賛成ですが、連携するから魅力化されるという認識ではなくて、連携はあくまで手段であると考えていて、連携して何をするのかという本当の目的を書くのであれば、専門性を乗り入れることによって、ハイブリッドな専門性を持った地域産業界におけるリーダー人材を育成するということだと思います。そのためのルートはたくさんあって、普通科に行って大学で地域づくりなどを学んでそのようなリーダーになりたいと考えるルートもあれば、専門学科から行くルートができて良いのではないかと思います。リーダー人材はどうしても大学で育成されるイメージがありますが、そんなことはなくて、高校からリーダー的な素養を発揮する方もいると思うので、何をするために連携するのかという、手段と目的の書き方は少し意識した方が良いと思います。最近感じることとして、専門性が一つでは足りなくて、ハイブリッドな知識がすごく必要なので、例えば環境変化や国際情勢、他県の事例などが分からないと、何かの専門性を一つだけ持っていて、それをお金に変えるというところでどうしてもつまづいてしまいます。

宮城県で獲れなかったタチウオが獲れるようになったり、いわきで近年伊勢海老が獲れたりするなどの環境変化もあって、今までのことだけを学んでいては、一次産業も立ち行かなくなるのであれ

ば、そのような情報収集力であるとか、世界や他県に早く目を向けるみたいなことも必要と考えると、資料内の「考え方」部分に明記するかどうかは別にして、学びの高度情報化や国際化が専門学科においても必要なのではないかと思います。また、先端技術の習得とありますが、地方の一次産業であれば、お付き合いしている農業者さんのお話を伺うと、働き手が居ない、居ない場合に頼る先はIT化であり、それは今進んでいると思います。専門学科を考える上でのもう一つはダイバーシティ経営で、早期引退された都心の方達に移住してきて農業をやる、あるいは国際化によって入ってきた外国人の方達、もしくは障害がある方達など、様々な個性や特性を持った人達を束ねてリーダーとして一次産業を担っていくことはすごく可能性があって、それを3年早く、高校の段階から取り組む学科です、という見せ方も1つですし、作物生産だけではない目線でやっていかなければいけないのではないかと。宮城県は北海道と違って農地の面積も小さいので、特色づくりであるとか、経営の工夫が必要だと思います。

地域の産業のリーダーである方達を育成するために、こういうことをしますという書きの方がゴールが見えていて、将来構想としては良いのではないかと思います。手段と目的の書き方を少し整理していただくことで、特色というか、個性が見えてくるのではないかなと考えたところです。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。案について具体的に御意見をいただきました。専門学科の在り方・魅力化で学校間・学科間連携などの魅力化とありますが、連携が魅力化だと読めてしまいますので、例えば連携などを通じた魅力化など、そのようにしないと目的と手段の関係が少し誤解を与えてしまうということだと思います。個人的な意見ですが、北海道は作付面積が広いですが、宮城県は首都圏に近く、新幹線を使えばものすごく早い時間で到達できるので、そういったことも活かしながら高校生がそのような魅力を感じながら学べることは良いと伺いながら思いました。ありがとうございました。

ここまでの議論を受けてどなたか御質問・御意見はございますでしょうか。宍戸委員お願いいたします。

#### 【宍戸健悦委員】

基本方針に関して、教育機会の確保というお話がありました。やはりどの地域においても、通える学校、そして選択肢の幅を一定程度確保することが、教育機会の確保だと思います。そういう意味で、学校配置とか学校規模の話が付いてくると思いますが、やはり地域ニーズというものをしっかり押さえた上で考えていただきたいと思います。例えば石巻や気仙沼には水産高校がありますが、地域ならではの特性というものがあります。そして地域との関わりということで先ほど連携という話がありました。地域との連携はこれから非常に重要で、本市の桜坂高校も今年からコミュニティスクールとなって地域との連携を考えているところです。地域のために何ができるかというのを子供たちは考え、その連携を通して地域活性化であるとか、地域づくり、人材育成に繋がるように今進めているところでございます。地域との連携を通して、将来色々なところで活躍できる生徒を育成していきたいと思いますので、学校配置や学校規模に反映する中で、地域との関わりをしっかりと押さえていただきたいなと思ったところでございます。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。事務局にお伺いしたいのですが、石巻それから気仙沼に水産高校があると

ということですが、それぞれ港があって、お互いの高校を船で行き来するなどのことはやっているのでしょうか。

#### 【菊田高校教育課長】

現在、宮城丸という県の船を運行しているところですが、学校を行き来するというのではなくて、航海実習という形で、両校の生徒が一緒の船に乗って、実習等を行っております。

#### 【青木会長】

ありがとうございます。宍戸委員にお伺いいたしますが、本日示されている案で通学困難地域の小規模校存続の検討のところ「市町村との協力体制の検討」とありますが、既に県立の高校教育に対して市町村から様々な形で御協力をいただいているということは、全国的な例を見ても認識しているところですが、市町村として、広い意味でのこの協力体制を、これからもっと深めていくことは特にやぶさかではないと、この会議としては認識しても問題ないでしょうか。

#### 【宍戸健悦委員】

例えば石巻にある県立高校は、地域防災に関して、地域と県立高校の連携は常々図っておりますし、商業高校においても地域の産業界との関わりも当然ありますし、本市の場合は桜坂高校もありますし、その辺は連携しながらですね、地域の中で学校づくりをしているという状況はあります。地域の中にせめて高校までは居て欲しいという地域の方々の熱い思いも非常に強くありますので、そういう意味からしても、地域と学校を繋いでいく、何とか繋いでいきたいという思いは強くあります。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。こちらの審議会は県としてできることを第一義的に検討する場ではありますが、市町村の声というのは宍戸委員などを通じていただいているところですので、市町村とどのようにこれから連携を深めていくか、今後どのように市町村と検討を深めていくか、この審議会の場としても、これからも御意見をいただければと思います。

次に多様な生徒のニーズへの対応について、御意見を伺えればと思いますが、後藤委員いかがでしょうか。

#### 【後藤武俊委員】

多様な生徒のニーズへの対応につきましては、アイデアルスクールの横展開ということが強調して示されております。この点と他の項目を見た時に、横展開の話と先ほどから話が出ている学校間連携の話というのが、どの部分で重なって、あるいはどこから別の話なのかというところは少し整理しておかないと、今後の部会の議論で重複なり整理しきれない部分が出てきてしまうのではないかと思います。部会の時には、各構成員に対して、この部分は別のところの話ですか、ここは一緒に展開して重ねた話をしても良いですというところはお示しいただいても良いのかなと思います。例えば、アイデアルスクールの横展開の話と配信センターの設置の話が一緒なのか、別なのかは少しわかりにくいところがあるのかなと思いますので、御検討いただきたいと思います。

その上で、この横展開の話は非常に面白いと感じてまして、宮城のどこに住んでいても、新しいコンセプトの学校に通うことができるというメッセージはすごく良いと思います。メッセージとあえて

言いましたが、要するに、そこで利用する制度というのは分校なのか、全通併修あるいは定通併修など、既存の枠組みを使うということがもしかすると実態かもしれませんが、その部分が従来仕組みとしてあったけれども、充分利用できるような環境になっていたのかということ、多分そうではなかったと思いますので、今の子ども達に合った形で、併修できるように進めて行くと新しい状況を作っていくことができるのではないかと思います。その時に参照軸になるのが、私立の通信制との兼ね合いだと思います。なぜ私立通信制が人気かと言うと、学校外の居場所となっているようなフリースクールなどと連携して、そこをサテライトにするような形で、高卒の資格を与えるようなことをやってきているわけですね。中にはそういったフリースクールに合わない子達が居ますが、自分に合った居場所で高卒の資格まで取れるという形を取っているが故に私立の通信制の強さというのがあるのだと思います。それと同じように考えた時に、ここからは少し想像の世界になるかもしれませんが、アイデアルスクールについても例えば、郡部の高校との連携ということに留まらず、高校レベルの教育支援センターなどを設置してそこと連携するとか、あるいは各地域の市民センターや図書館などと連携する、あるいは子供や若者を支援する団体と連携していくなどの形で、私立の通信制の上に行くような柔軟性みたいなものを検討の段階では考えても良いのではないかと思います。

このように申し上げるのは、やはり困難を抱える子達は、学校という形に居場所を見出せない子もいるということがありますので、この仕組みを公立で柔軟なものを作りましたと言っても、それが子供達から柔軟に見えないのではあまり意味がないだろうと思いますので、検討の段階では幅広いことを考えても良いのではないかと思います。具体の部分では、例えばフリースクール以上の柔軟性と言いましたけれども、郡部であっても図書館など公共施設はたくさんありますので、例えば学習できるスペースを置くだとか、そういったことも検討しながら進めていけると良いのではないかと考えました。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。アイデアルスクールの横展開については、前提条件として検証は必要だろうということと、多様な学びの場を提供するというところでございました。逆に言うと、これまでのスタンドアローン、フルセット型の高校教育モデルを転換してネットワーク型にしていこうと、それもこの時点で検討していこうという御意見と受け取りました。

小規模校（1学年1学級規模）の配置について、菊地委員にお話を伺えればと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【菊地直子委員】

小規模校の配置についてはとても難しい内容だと思いますけれども、この配置についてはこれまでの議論を見返してみても、教育内容の検討とか、ポジティブな内容とは異なっていて、家庭や地域経済、これまでの経緯など、判断基準は多岐に渡る上にお金の問題も絡んできます。そのため言及しづらいという印象がどうしてもあります。案については今のところはこのように記載するしかないという認識です。これまでに無い視点とか、思い切ったことに対する未知の恐れなどもあって、そういった意見は議論には登りにくいという印象です。しかし、このままでいきますと、現状を維持したままギリギリまで、維持が難しくなるまで、問題を先送りにするような議論になりかねないのではないかと考えております。私自身は、教育政策の専門家ではありませんが、どんな選択をするにしても検討するためには実現可能かどうかという見通しは、ある程度持つておくべきで、一つはお金であっ

て、もう一つは人的資源ではないかと考えております。

私自身の経験ですが、数年前に、高校の先生方を対象とした研修会をしていた時に、目標設定の演習として教員の皆さんに一時流行った大谷選手のマンダラチャートをやってみたことがあります。マンダラチャートというのは一番真ん中に自分のなりたい姿である目的を書いて、そのための手段となる目標を周りに書く。そしてその周りは、それを達成するための具体的な行動を書くというのですが、大半の先生方が一番重要な真ん中の目的を書けませんでした。これは1校だけではなくて、何校かの先生方が同じ状況でした。先生方は教育活動をやっている上で、日々やらなくてはならないことを一生懸命やっているんだけど、それは何のためにか、というところがどうも繋がっていない、咀嚼する時間も無いのかもしれないとその時は思いました。何よりも、先生方がそのことにショックを受けていたことがかなり印象的でした。また、このことは現場の先生方が積み重なる業務に精神的に追い込まれている状況があるということを感じました。今後、小規模校を維持していくためには、色々なアイデアがあると思いますが、ICTの導入やそのほかにも諸々の新しい取組などがあって、タスクがどんどん増えていくわけですね。これは先生方には相当な負担を強いることになるので、私は、プランを考えることも大切ですが、実現可能の見通しをある程度の試算や想定に基づいて議論する必要があると思っています。

したがって、お金と人的資源について、例えばギリギリまで現在の形を維持するための政策を選択して何年後かに継続不可能になった場合と、予測される未来から思い切った方策に転じた場合の費用と人的資源の費用対効果みたいなものを試算する必要があるのではないかと思います。この後の部会でも、そういったものが無いとこうの方が良いよね、ああした方が良いよね、に留まってしまい、結局やれそうかわからない部分は大胆な意見が無くなってしまって、前のことを踏襲することになっていきがちになるのではと危惧しております。

#### 【青木会長】

ありがとうございます。私、この審議会の最初の会議で、理想論を語り合いましたって言ったところですが、他方でやっぱり実現可能性が大事だということもおっしゃる通りだと思いました。もう一点、政策の目的と手段の関係をはっきりしましょうと重要な御指摘をいただきました。特に政策の目的というのを共有認識に至らないと何をやっているのか分からないということになります。例えば、小規模校を存続するという決断をするのであれば、何のために残すのかということですね、ただ残すことが目的になってはいけないということ承りました。

議事（1）学校配置や学校規模の考え方について、多様な御意見をいただきましてありがとうございます。このタイミングで事務局から何かありますでしょうか。

#### 【事務局（高橋高校教育改革担当課長）】

たくさんの御意見をいただきありがとうございます。学校配置・学校規模の大きな目的として基本方針を、その手段として普通科の在り方等を整理したところでございますが、いただいた御意見を踏まえまして再度調整させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【青木会長】

ありがとうございます。田端副会長お願いいたします。

**【田端副会長】**

2点発言させていただきます。まず学校規模のところでは1学年当たりの学級数についても考慮、検討いただきたいということと、「通学困難地域においては小規模校の配置を検討する」ということについて、小規模校のニーズは都市部でもあつたりしますので、「通学困難地域をはじめ」のように限定しない書きぶりをしていただきたいと思いました。

**【青木会長】**

具体的な御意見ありがとうございます。事務局におかれましては、今の御意見を含め、案についての修正を必要な範囲でお願いいたします。それではこの件については以上としたいと思います。

次に議事（2）今後の進め方について、事務局から説明をお願いいたします。

**【事務局（高橋高校教育改革担当課長）】**

資料2により、今後の進め方として、部会を設置すること、各部会の検討項目、会議の公開の取扱い、部会の構成員について説明。

**【青木会長】**

ありがとうございました。こちらの議事（2）につきましては、本日（案）を取る方向で御意見を伺わなければなりません。部会の非公開の取扱いについては、先ほど御案内がありましたとおり、この会議の構成員の2/3を超える合意が必要であるということで、本日15名の委員が出席されておりますので、皆様全員から御賛同をいただいた場合には非公開の決定が本日取れるという確認が取れました。

資料2の、部会の設置、非公開の取扱い、部会の構成メンバーについて、何か御意見がありましたら、伺えればと思いますが、いかがでしょうか。太田委員お願いいたします。

**【太田克佳委員】**

部会については既にお示しいただいた経緯があつて、おおよそ予想していた通りですので、特に異論はありませんが、少し考えていただきたいのは小規模校の学びの在り方検討部会についてです。学校間連携の一つの例として、部活動の在り方を含むと記載されておりますが、これは小規模校だけではないと思うところが一つと、県立高校の在り方の検討と別枠で、義務教育において既に進めている地域連携とか、地域社会への移管などにも関係があると思います。この部会でそこに具体的に踏み込んでいくように注力した時に別のルートで全然違う動きや結論が出た時に、議論が無駄になってしまうと思います。ですから、どの程度扱うという意味で含むのかは、慎重に考えていただきたいと思っています。

**【青木会長】**

ありがとうございました。検討の方向性についての留意点をお示しいただきました。そのように取り扱わせていただきたいと思っています。後藤委員お願いいたします。

**【後藤武俊委員】**

多様な学びの在り方について、一番下の特別な支援を必要とする生徒への対応と一言だけ記載があ



ります。ニュアンスについてはわかりますが、特別な支援といった時に非常に幅広い要素が含まれる中で、御本人の生活上の機能での支援を必要とする人まで含めてしまうと意味が違ってくると考えます。例えば、「学習において特別な支援を必要とする」とか、あるいはもう表題の通りで、「多様な学び方を必要とする生徒への対応」としないと、特別な支援が必要な子供が定時制や通信制、あるいはイデアルスクールに行ってくださいというメッセージにならないようにすべきではないかなと思いましたがので発言させていただきました。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。検討の方向性の留意点として承りました。村上委員お願いいたします。

#### 【村上由則委員】

部会が4つあるとおそらく中で交差する部分があると思います。例えば遠隔授業を考える時に、私が構成員となる多様な学びの在り方検討部会の中で定時制とか通信制の話になると、少人数の場合に遠隔授業をどうするのかという、そういう話が必ず出てきます。先ほど太田委員からも発言がありましたが、片方が進んでいて、片方では別な意見が出てしまうと、その部分の議論が無駄になってしまうというのがありますので、どこかで別の部会と意見交換しなくてはいけないとか、そういったことが結構あるのではないかと思います。

4つに分けられている意味は分かりますが、教育的な活動としては分けられないものがたくさんあると思いますので、日常的に動くのは部会で結構だと思いますが、色々な議論をどこかで噛み合わせないといけないと思います。その場をどのように考えているのか教えていただければと思います。

#### 【青木会長】

ありがとうございます。基本的には部会長間の連携ということで事務局からは御説明いただきましたが、私個人としては必要であれば、合同部会の開催とか、そのような形で協議内容を連携させていく必要があると考えております。必要に応じて機動的に柔軟に部会の持ち方も考えたいと思っておりますが、これはあくまで私の意見でしたので、事務局から何かございますか。

#### 【事務局（高橋高校教育改革担当課長）】

例えば各部会の1回目が終わったところで各部会長に進捗状況を共有していただく打ち合わせを持ちたいと考えておりますのと、今、青木会長からお話ありましたが、必要があれば、合同部会を設置させていただきたいと考えております。また、部会の第1回、第2回目が終わったところで審議会の場で各部会の検討状況を報告させていただく場も設けたいと考えておりましたので、審議会の皆様にも意見を共有しながら進めていけるようにしたいと事務局としては考えております。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。オンライン会議、対面でもオンライン会議のシステムを通して、音声データをAIが要約したり、文字起こししたりすることは簡単にできる時代ですので、そういったものを使いながら、議論の進捗状況を即時に横展開できる時代ですので、色々なものを使いながらシームレスにやっていきたいと思っております。

それでは、部会の設置についての外側の御意見をいただいておりますが、審議会として部会の設置

の結論を出したいと思いますがいかがでしょうか。こういった形で部会を置くこと、部会の非公開、部会の構成員について、事務局の案のとおり進めてよろしいでしょうか。

(異議なし)

#### 【青木会長】

ありがとうございます。それでは全員から御賛同をいただいたということで事務局案のとおり進めていきたいと思えます。引き続きよろしく願いいたします。

まだ時間がありますので、それぞれの部会でこういったことを検討してはどうかなど、御意見いただければと思えますが、いかがでしょうか。高橋由佳委員お願いいたします。

#### 【高橋由佳委員】

多様な学びの在り方検討部会について、アイデアルスクールの横展開等というのがありますが、アイデアルスクールの特色は、フレキシブルな学び方、魅力ある学び、多様な教科科目、サポート体制の充実の4つがあったと思えますが、すべての部会に関わることが学校の特色に含まれているのではないかと思えます。資料の中では、高校魅力化と多様な学びの在り方検討部会の2つにアイデアルスクールが明記されていますが、もしかしたらここは見直した方が良いのではないかと考えております。

もう1つは、困難を抱えている生徒はすごく増えていると思うので、先ほど後藤委員から話があったように、特別な支援という言葉を少し変えていく必要があるということと、選択肢を増やすということが1つあるともう少し自由に生徒がここで学び直しができるところで柔軟になっていくのかなと思えます。出口という部分で、困難を抱えている生徒の卒業後の進路は、例えば一般就労と福祉的就労というところで、進路の先生方がすごく苦慮されていて、そのまま卒業後に無業者になる可能性があるということが多く秘めていまして、出口というところでのサポート体制というものを柔軟に入れていく必要があるのではないかと思いました。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。確かにアイデアルスクールが特殊な設置形態のため、まずは1つしっかりやっていく、それで必要であれば増やしていくという方向性と、アイデアルスクールに込められた教育活動の考え方を他の学校に展開するということもあり得るわけですので、その辺りを区別しながら議論をしていくことも必要があると伺っておりました。多様な学びの在り方検討部会については、後藤委員からの御指摘もありましたが、特別な支援と言って良いのか、特別な教育ニーズと言って良いのかということも分けて考える必要もあろうかと思えますので、その辺を含めて具体的な検討事項については、事務局で考えていただければと思えます。伊藤秀雄委員お願いいたします。

#### 【伊藤秀雄委員】

高校魅力化検討部会に関して、1つ御意見をさせて申し上げたいと思えます。産業界ということで参加させていただいておりますが、私も登米市の産業振興会とか、県の物産振興協会の会長させていただいておまして、最大の課題となっておりますのが、求人、特に新卒者の雇用が非常に難しいことです。誘致企業をはじめ、地元企業はさらに厳しい状態にございますので、専門学科の魅力化方策の

検討とありますが、子供達の数が減っていくわけなので、何かに特化して、全国から子供達を呼び込むようなレベルまで深めていただければ、我々地元産業界としても立地企業の皆さんも含めて、期待ができると思っております。

学校配置の検討部会において、大学附属高校という案もございましたが、宮城大学のことだと思っておりますが、私も宮城大学の評価委員をさせていただいておりますが、理念に実学、宮城県の産業に貢献するといったようなことがありますので、附属高校ということは大変結構なことだと思っておりますので、ぜひ進めていただければと思っております。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。いわゆる全国募集について御意見がありました。全国募集は離島や山間へき地等で先進事例が全国では報告されているところですが、専門学科でも全国募集の考え方は十分にあり得るのではないかと御意見と承りました。

また、個人的な意見になりますが、就職の出口がマッチングできる学校、あるいは進学を考えた場合でも、専門学科から大学進学ルートもあるという多様な進路が保障できるような専門学科という姿が見えれば、全国の中学生も魅力を感じてくれるのではないかなと思われました。菊地委員お願いいたします。

#### 【菊地直子委員】

小規模校の学びの在り方についてですが、こちらの部会では、小規模校の配置については検討せず、学校配置検討部会で小規模校の配置を検討するというところでよろしいでしょうか。

#### 【事務局（高橋高校教育改革担当課長）】

小規模校の配置につきましては、学校配置検討部会で検討いただくことを考えております。小規模校の学びの在り方検討部会では、小規模校における遠隔教育など、教育内容について検討いただくことを考えております。その二つの部会につきましても連携しなければいけませんので、先ほど申し上げた部会長間の打ち合わせなどをしっかりやっていかなければならないと考えているところでございます。

#### 【菊地直子委員】

学校配置検討部会で大枠を決めていただいた後に、他の部会で学びの在り方を検討していくという流れになるのでしょうか。

#### 【事務局（高橋高校教育改革担当課長）】

御認識のとおりでございます。部会のスケジュールといたしまして、学校配置検討部会の議論を先行させていただきたいと考えておまして、ある程度の方向性が出た段階で、その他の3つの部会についてもその内容を共有しながら検討いただくというスケジュールを具体的には考えております。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。千葉委員お願いいたします。

### 【千葉純子委員】

中学校の現場から考えれば、どこの中学校でどこの地域に住んでいても学びの機会が保障されるというのはあるべき姿だと思いますが、現実的には通学の時間であったり、距離であったり、周りの学校であったり、子供達の数であったり、色々な環境が変わるところで、すべてが平等というのは難しいだろうなとも感じもしました。

地区別に高校が配置されるかと思いますが、例えば100人の子供達が居たとして、母数が多い中での100人の高校は同じ目的を持った子ども達が揃うと思いますが、母数が少ない中での100人の高校は、その100人の持っている多様性というのはすごく広がってくると思います。同じ普通科でも色々な目的を持って入学してくる生徒もいます。

検討いただく時に、例えば定数だけではなく先ほどお話があったように、学級内の人数であったり、コースであったり、普通科の中でもそれぞれの学校の中に多様な学びができるような工夫が必要だと思います。その時に必要になるのは教員数であったり、環境であったり、先ほどありましたようにお金だったり、そういう問題もあるかと思いますが、地方の高校においては、教員数であったり、環境なども加味していただくと良いと思います。先ほどあったスクールバスもそうですが、同じような教育が受けられる環境づくりというものも検討していただければと思います。

もう一点ICT、オンラインの話もたくさん出ているかと思いますが、各地域が持っている財産は多様だと思います。都市部で持っている財産もあれば、地域である財産もあるかと思いますが、オンラインで補完できるものとその地域でなければ得られない財産もあるかと思いますが、すべてがオンラインで良いわけでもなく、オンラインの利点を生かした学校づくりも必要ではないかと思って聞いておりました。

### 【青木会長】

ありがとうございました。確かに地域によっては、1つの普通科の中に、色々な進路や出口希望を持っている生徒がいます。つい最近ある全国紙に高校再編に関わってコメントを寄せましたが、例えば単位取得の柔軟化は、制度上は保証されているので、特定の学期・学年は、ベースとなる学校ではないところに学びに行って、進路希望を同じくする生徒達で切磋琢磨する学期があるなど、そのようなところまで見据えて検討をしていく必要があるかと思いました。長濱委員いかがでしょうか。

### 【長濱澄委員】

私からは小規模校の学びの在り方についてコメントをさせていただきたいと思います。主要検討項目として遠隔教育の在り方はかなり大きい検討項目だと思っておりまして、この中をさらに細分化する必要があるのではないかと感じております。オンラインで何が出来る、何ができないという検討がとても重要だと思っておりまして、その結果、地域連携を通した魅力に繋がるような授業が生まれたりとか、学校間の連携によって魅力が生まれるような事例ができたりすると思います。本日、手段と目的の話があったと思いますが、この主要検討項目の中にも、そのような階層関係があるようにお見受けしました。その上で、遠隔教育の在り方ということに関して、配信センター等の設置、学校間の相互配信も含めてですが、オンライン授業といっても、同期型、リアルタイム型なのか、それとも非同期型、録画したものを配信するのか、わざわざリアルタイムでやる必要があるのかどうかということについては、学び方を教科、あるいは学習目標、あるいは学習活動に合わせてしっかり選択をす

る。教科特性をしっかりと考えると、ノウハウに関する検討も重要なのではないかとお伺いしながら思った次第です。

例えば、同期型授業においても、今日も同期型のリアルタイムのオンラインの会議が行われていますが、事務局の職員の方がiPadの設定やマイクの受け渡しの対応をされておりますが、こういったところにノウハウが蓄積されているようなところがあって、将来的には先生方がいかに省力化してオンラインを活用した学びを日常的に位置付けることができるのかが一種のゴールになると思います。

最低限こういう機材は必要だよなとか、先生側にあるいは、受ける側の支援員にこういう技量は必要だよなとか、そういった指針となるようなものを示すことが、この部会においては、最低限必要なところになってくると思いますので、遠隔教育の在り方の検討もすごく重要だと思いますが、細分化するような方針も1つあっても良いのかなと、部会の中では検討する必要があるのかなと思いました。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。まさに小規模校の学びの在り方検討部会に入られますので、ぜひ議論をリードいただければと思います。よろしくお願いいたします。

資料2の事務局案については委員の皆様にご同意いただいたところですが、その内容が文書で示されているのが資料3の要綱案でございます。改めてお伺いいたしますが、資料3にお示しされている部会の設置要綱案について事務局案のとおり定めてよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それではこれを持ちまして部会の審議に入らせていただきます。各部会委員におかれましてはどうぞよろしくお願いいたします。また、部会に入られない委員におかれましても、必要がある場合は御意見を各部会にお寄せいただければ事務局で対応したいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは議事(2)今後の検討の進め方については議事を終えたいと思います。

予定していた議事は以上となりますが、そのほか議事として取り上げる事項がございますでしょうか。

(なし)

それでは、次の報告事項に移りたいと思います。魅力的な県立高校づくりのためのアンケート調査実施結果(速報)につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

#### 【事務局(熊谷教育企画室長)】

報告資料により、魅力的な県立高校づくりのためのアンケート調査実施結果(速報)について説明。

#### 【青木会長】

事務局からアンケート結果の速報について報告がありました。御質問等ございましたらいただけれ

ばと思いますが、いかがでしょうか。

アンケート調査では中学生の保護者、高校生の保護者の意見も拾われておりますが、町田委員は高校生の保護者の立場でもあられますし、ある意味アンケート調査の当事者でもありますので、御感想をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【町田さやか委員】

アンケートの集計ありがとうございます。12ページの就きたい職業分野で⑮の教育・学習支援業、学校の先生の部分ですが、この部分の回答率が低くないような感じですが、将来学校の先生になってくれる人はいるのか、実際の学校の先生達はこの数値を見てどう思っらっしゃるのかというのを伺いできればと思います。

13ページの就きたい職業分野の理由として、「④高校の授業や活動等で考えるきっかけがあったから」の回答率は低いと感じました。

自由記述では、本審議会でも意見が出ている外部との連携が重要だと考えている意見も出ていますし、そういうところへのコンタクトが足りないということが多く記載があるので、審議会と今の中学生や高校生その保護者の考えていることにズレはないと思うので、そのまま進めていただければと思います。

高橋委員や菊地委員の、大学がゴールではないという話を聞いて思い出したことがあります。最近大学に入ってからうつ病を発症する方が多いというのを耳にしたことがあります。それはコロナの影響であったり、生活環境が変わったということも大きいと思いますが、もしかしたら大学に入るための勉強をしまして燃え尽きてしまったという人もいるのかなと思っています。

高校生になって、保護者の立場として、子供の顔色を見ていれば何かあったかはわかるのですが、相談はしてくれないことが多いです。相談しやすいのは同じ学校の生徒や先生だと思いますが、先生が話を聞ける状況になかったら大変です。

仙台育英高校の須江監督は自分が話した内容を録画して、自分でそれを見るようです。そして自分がちょっと分かりづらい部分があると、見直していくということをやっていると聞いて、魅力ある先生がいることはすごく大切なことだと思うので、先生方も忙しいとは思いますが、任せられるところは外部とかうまく使って、PTAに対してもこういった講演をやって欲しいという意見をもらえれば対応させていただきますので、魅力ある先生を作るきっかけになれば良いとアンケートを見て思いました。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。冒頭で、この審議会の議論の方向性と、それから当事者でいらっしゃる生徒、それから保護者の皆さんの目線合わせが結果的にはもうできているという大変力強い御意見をいただいたと思います。ありがとうございます。

また、お尋ねがあったと思います。教育・学習支援業を目指す子供達あるいは保護者の回答割合が低いのか高いのかということについて、実際、高校の教育活動に携わっている高橋委員や太田委員にお伺いしたいと思います。

#### 【高橋賢委員】

教育・学習支援事業の回答割合が高いのか低いのかは、個人的には割合的には高いと感じています。先ほどの須江監督の話ではありませんが、先生方も本当にやる事が多くて、全然自分を振り返

る余裕がないことはあるかもしれません。それは我々管理職の問題が一番大きいと思いますので、非常に反省をしておりますが、今魅力ある学校づくりということで、審議会でも色々なテーマで色々なお話をいただいておりますが、教員の魅力化も1つだと思います。実際、日本全体で教員不足、成り手がいないと言われており、教員というのは素晴らしい仕事だとか、未来を作る仕事だによって、私はいつも言いながら先生を増やしたいなと思っておりますが、そこまで至っていないのも現状だと思います。

審議会の中で魅力ある学校がどういうものなのかということ色々な意見をいただいて、それを参考に、校長先生方とも話しながら、こういうところに魅力が出てくるのではないかと、このアンケートを見て、子供たちはこう思っているというのを参考にしながら、校長先生方と連携して、魅力ある学校づくり、働き方改革を進ませて、先生が自分達の資質向上に努められるようなところにすれば、未来の教員も増えていくと思っておりますので、頑張りたいと思っております。

#### 【青木会長】

ありがとうございます。太田委員いかがでしょうか。

#### 【太田克佳委員】

高校生の8.1%が教育・学習支援業を進路先として選んでいることは異常に多いと思っております。これは普通ではないと思っております。40人学級の中で3人以上が教育系に行きたい。現実にはそうならないでしょうし、突出して高いと思っております。

これはいつでも言えることですが、子供達は学校で過ごしている時間が長くて、生活の大部分が学校なわけですから、学校の教員の仕事が一番身近で目にしている、触れている仕事ですので、これを選ぶことは率として当然高くなると思っております。一方で社会には色々な仕事があって、それぞれが繋がり、支え合って、社会が動いている、進歩しているよということをもっと体験させる、そういう体験を積むことによって、心情などが深く育っていくと思っております。

全部とまでは言いませんが、もっとバランスよく進路目標が出てくると本当は良いのではないかと思います。教員になってもらいたいのは山々ですが、皆が皆ならなくて良いよというのが私の率直な感想です。

関連してもう1つ話しますが、学校の魅力化ということで、普通科改革が国からも言われていて、今喫緊の課題なんでしょうが、これまでの数十年を見ると中学校も高校もそうですが、入学してすぐに高校どこ行きたいとか、大学どこ行きたいとか、仕事何したいなど進路希望調査をしますが、子供達はやっと一息ついているところです。これからそこに向けて、狭い道を勉強していくとか、体験していくじゃなくて、色々な体験して、色々な人と接することで、今言ったような、職業とか、就業に対する視野が広がって多様化した進路希望の数値が出ると思っております。

そのため、あまりに目標に特化した学校や学科とか、あるいはうちはそのような学校ですとか、そういうことをとりわけ普通科でやってしまうと、かえって良くないと思っております。

#### 【青木会長】

ありがとうございました。2人の校長先生から御意見をいただきました。教職の魅力化は私自身の専門ですが、伝わるようにしなければいけないし、そのためには先生方が疲弊した姿をずっと毎日見せるわけにはいかないので、先生方が最前線で働く場をどうするか考える審議会ですので、働き方改

革がベースにならないといけないと思います。働き方改革、先生方のワークライフバランスは当然の前提で忘れがちですけども、考える一つの軸になると思います。

確かに今の12ページですが、こちらを見ると、顧客である生徒保護者のニーズの一端が現れていると思います。今後の部会の検討においても、学科構成、高校でどのような教育プログラムを提供すれば良いかということの参考になるデータが含まれているようにも思いますので、ぜひ深い審議に御活用いただければと思います。

時間的に最後になりますが、田端副会長アンケート調査結果について御意見いただけますでしょうか。

#### 【田端副会長】

この調査を実施された教育企画室におかれましては、分析も含めてありがとうございます。2万5千人も関心を持ってくれて答えてくれたことにもすごくいい結果だったと思います。

私も統計調査を専門にしているので、学術的な専門性から見た場合、2点ほど気になる点があります。1つは2重、3重回答のチェックができていないのか、もう1つはサンプリングの問題で、母集団は何十万人といますので、サンプリングがうまくいっているかというところ、その2点からどこまで信用できるかという疑問が残るので、どちらかというプレ調査みたいに、探りを入れる調査として、ペンディングするような使い方が良いのかなと思います。

興味深いところとして、17ページの学校規模のところ、やっぱり中規模から大規模の回答が多いのと同時に、何学級でも良いという答えも一定数ありますし、小規模のニーズがあるのではないかという推測ができるようになる。この部分は厳密に調査しても良いのかなと思いました。

もう一つは、11ページの高校卒業後の進路ですが、中学生の4割弱が大学進学、大学進学だけが人生じゃないと思いますが、これがどこまで本当なのか、あるいは回答者に偏りが無いのかというところが疑問になりながらも、もし本当だったらどうしてこんなに低いのが気になったところでした。色々な探りを入れるためには参考になるのかなと思いました。

#### 【青木会長】

ありがとうございます。御指摘の内容全くもってそのとおりでございます。事務局側としても調査の在り方については、認識された上で報告資料という形であくまで探りを入れた結果というようなことでお示しいただいたと思います。委員の先生方におかれましては、そのような取り扱いということで、御承知いただければと思います。この件につきましては以上とさせていただきます。

それでは事務局に進行をお返しいたします。本日も円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございました。

#### 4 その他（事務局）

各部会の日程について11月以降の開催を予定している旨を報告。

#### 5 閉会（事務局）